

説明会の概要

- ① 今なぜ1人1台なのか（国の考え、三木市の現状）
- ② 子どもたちのタブレットについて
- ③ 具体的な使用について
- ④ 保証、故障修理について
- ⑤ 保護者の皆様へのお願い
- ⑥ 質疑応答

新たな社会 “Society 5.0”

5.0



1.0
Society 1.0 狩猟



2.0



Society 2.0 農耕



Society 3.0 工業

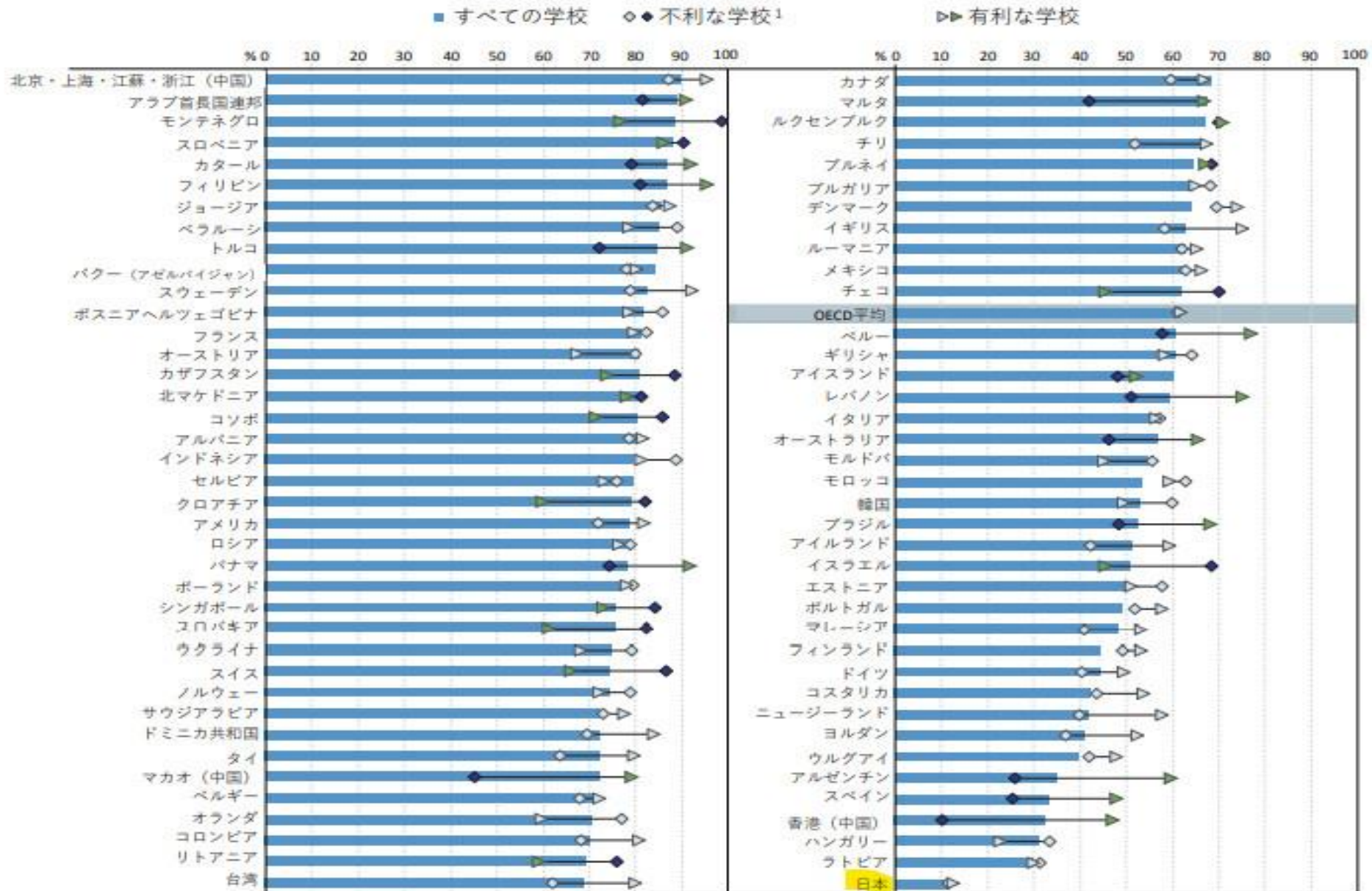
3.0

4.0



Society 4.0 情報

今なぜ1人1台なのか



OECD 「生徒の学習到達度調査 (PISA2018)」より

今なぜ1人1台なのか

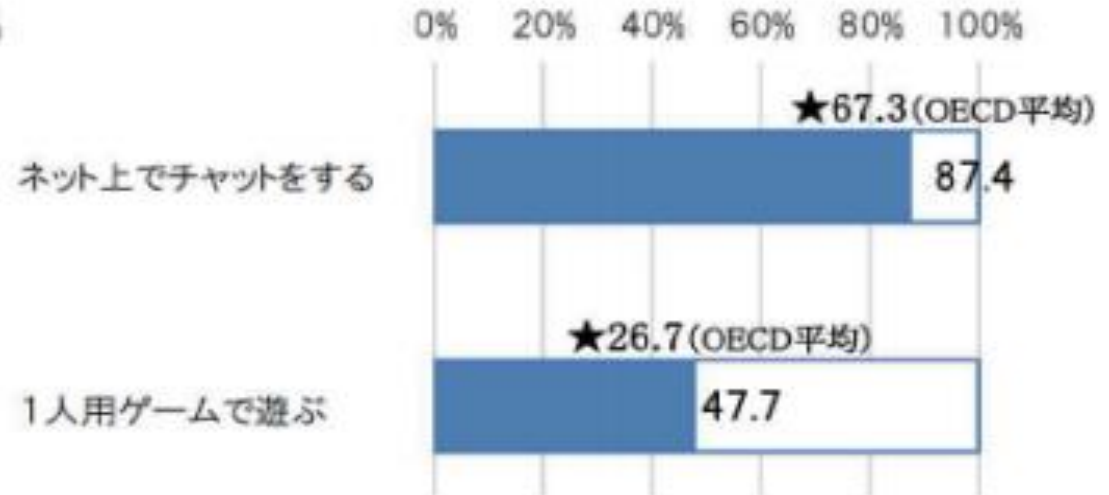
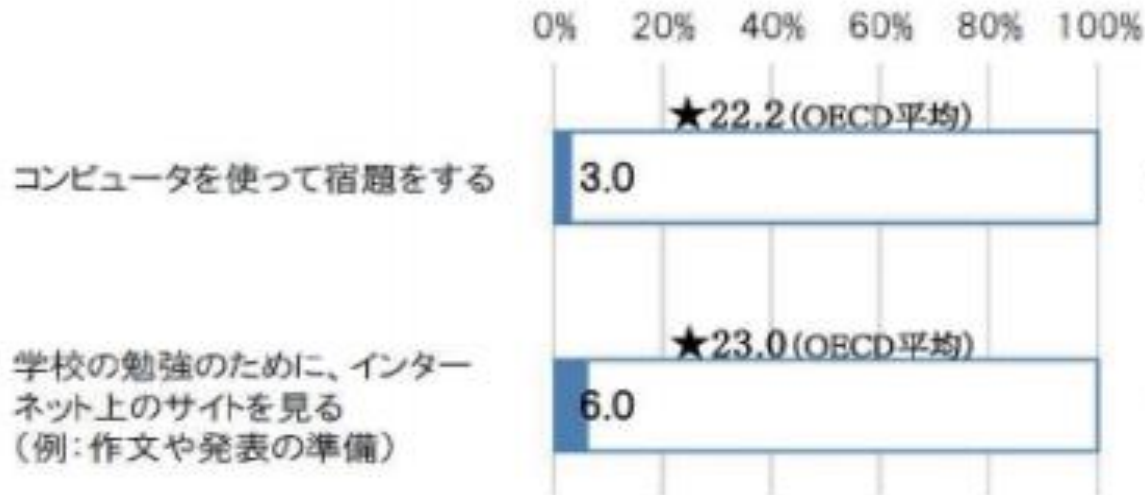


今なぜ1人1台なのか

3 子供の学校外でのICT使用は「学習外」に比重

✓ 学校外でのICT利用は、学習面ではOECD平均以下、学習外ではOECD平均以上

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)

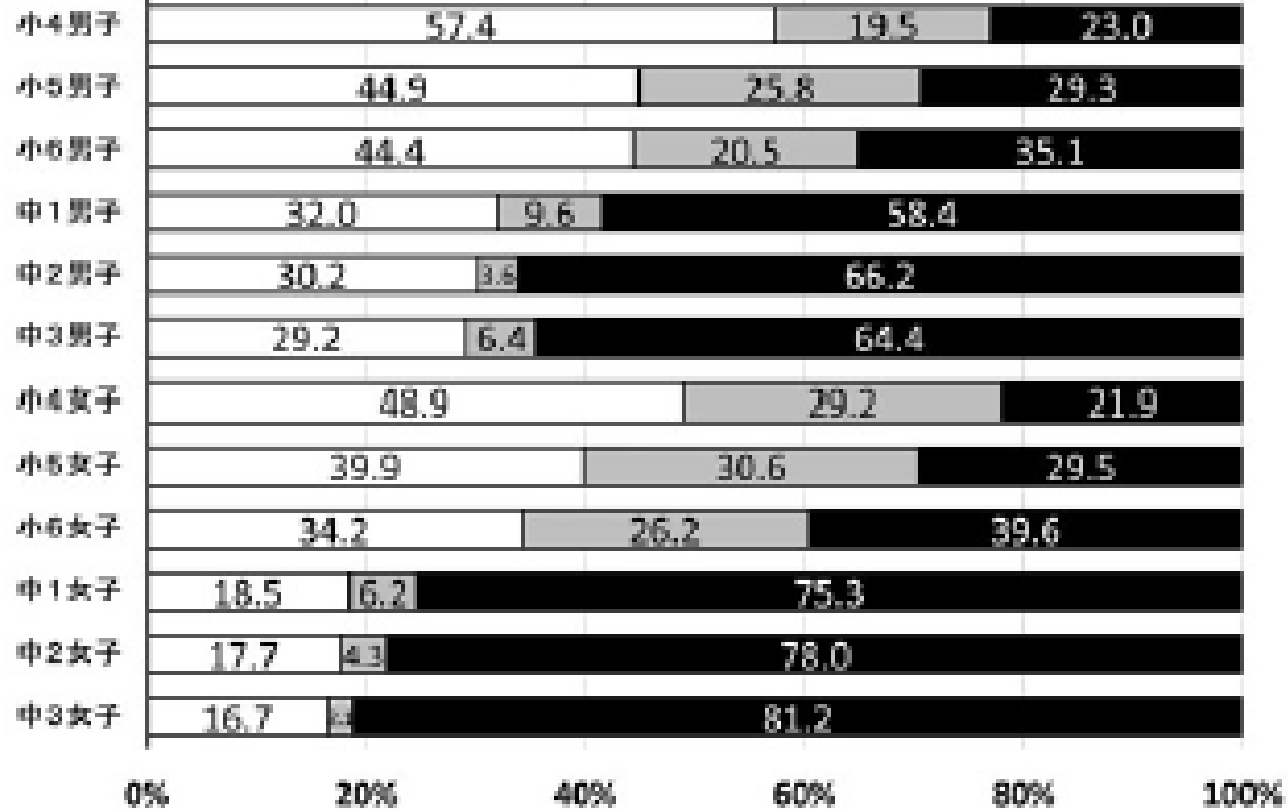


(出典: OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」)

三木市の現状は…？

携帯電話所持率%

不所持



兵庫県立大学 竹内和雄准教授

令和元年度「ケータイ・スマホ」及び「インターネット夢中度調査」結果 三木市版より

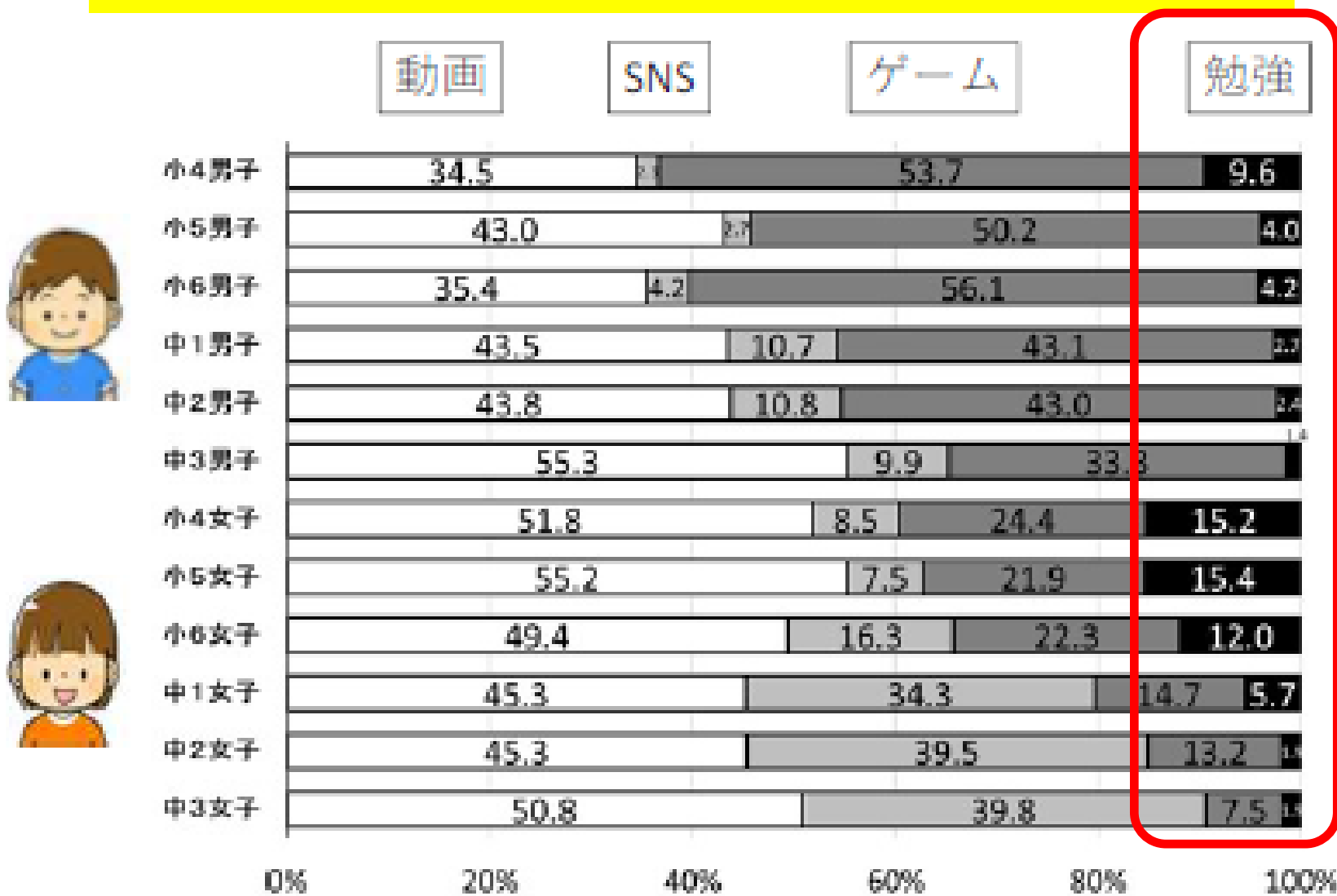
ふだんインターネットに接続している%



兵庫県立大学 竹内和雄准教授

令和元年度「ケータイ・スマホ」及び「インターネット夢中度調査」結果 三木市版より

ネット一番すること%



兵庫県立大学 竹内和雄准教授
 令和元年度「ケータイ・スマホ」及び「インターネット夢中度調査」結果 三木市版より

家で一番すること%

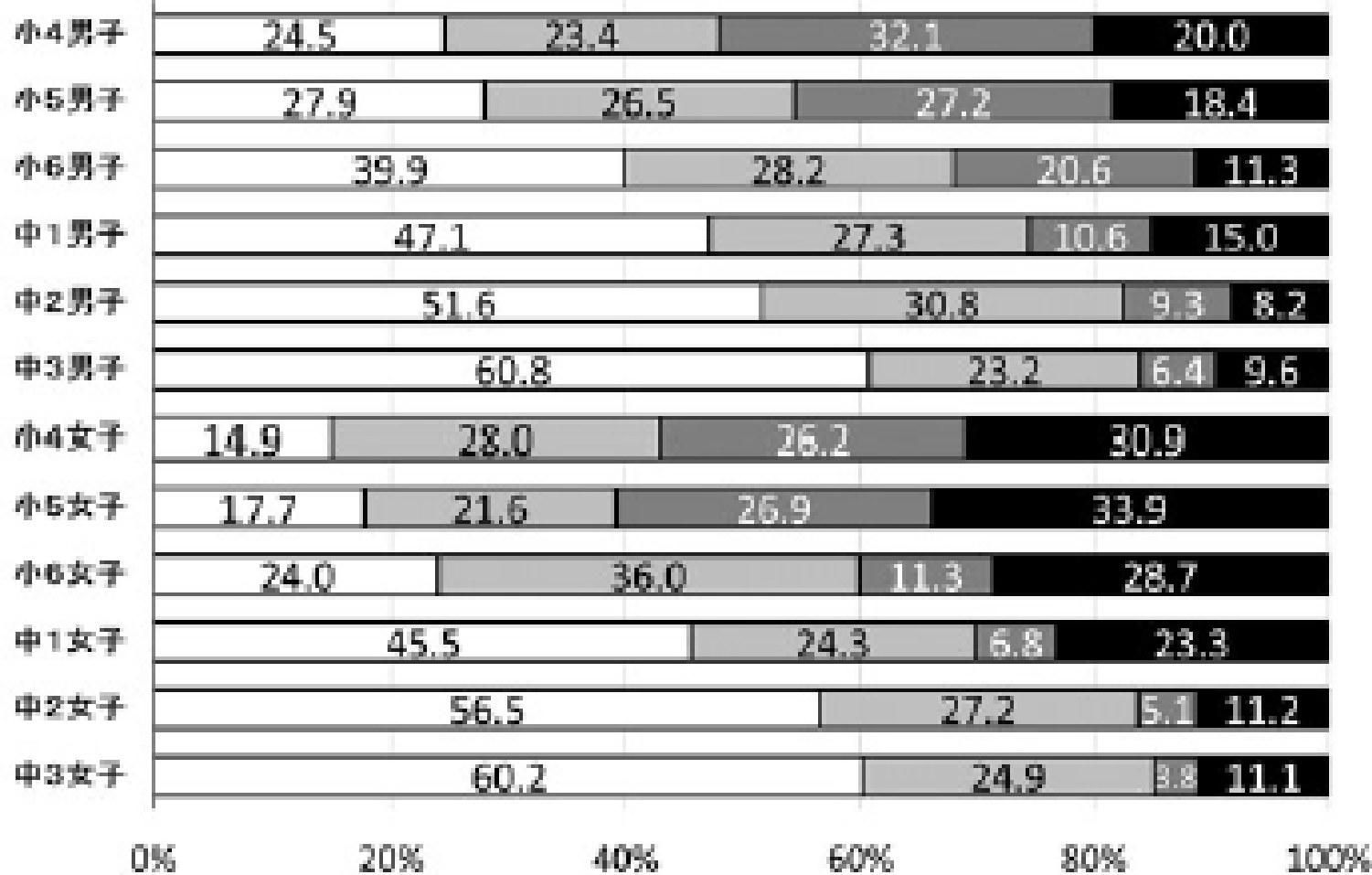
ネット以外

ネット

テレビ

遊び

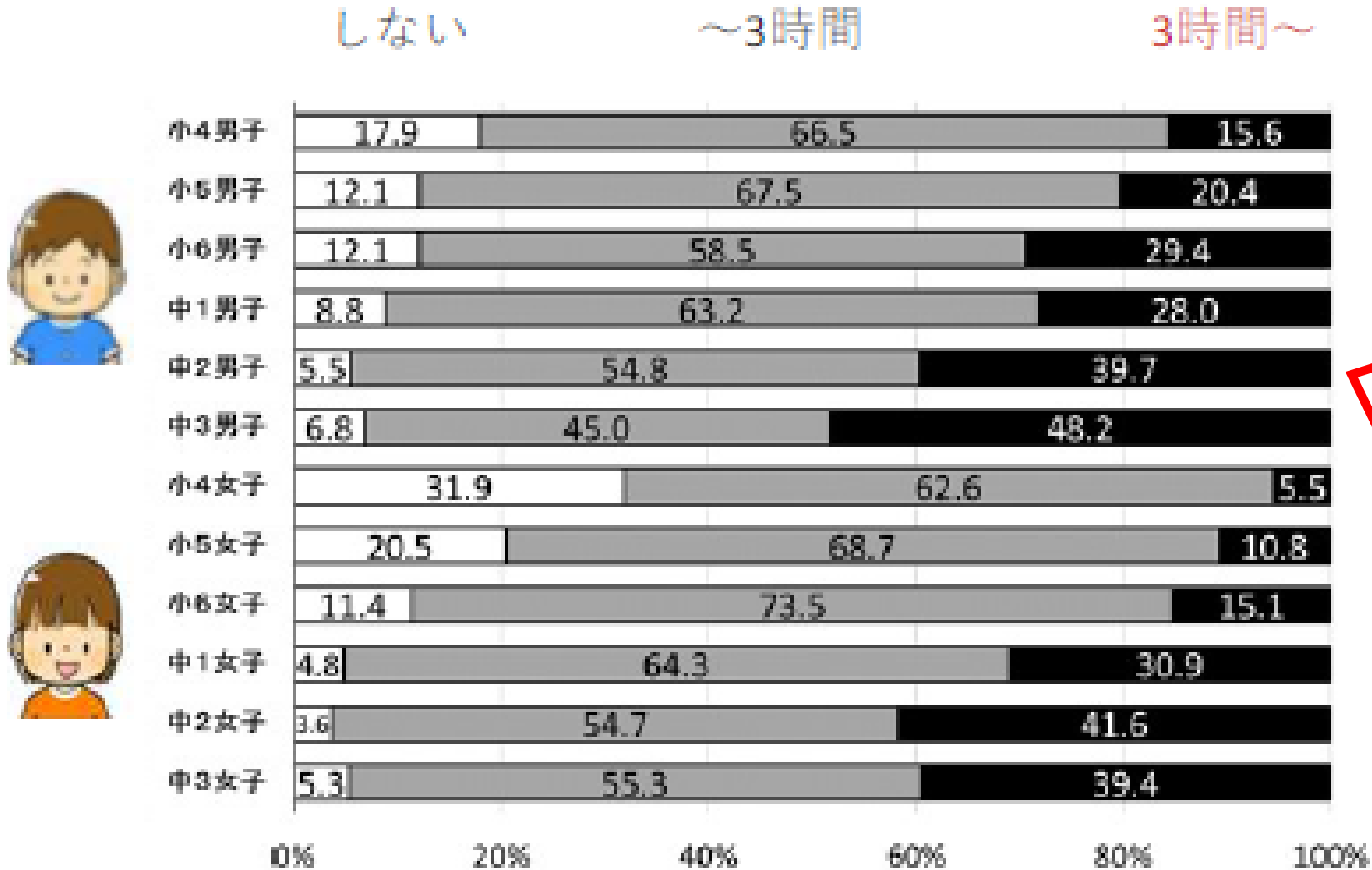
勉強等



兵庫県立大学 竹内和雄准教授

令和元年度「ケータイ・スマホ」及び「インターネット夢中度調査」結果 三木市版より

ネット接続時間%



インターネットを使っている時間は長い

今なぜ1人1台なのか

タブレットやスマホの使い方



動画・ゲーム・SNS



学習へシフト



子どもたちのタブレットについて

Lenovo D330

サイズ 約 249x188x18.5mm

使用時間 約 14.3時間

充電時間 約 2.9時間
(パワーオフ時)



子どもたちのタブレットについて

富士通 ARROWS Tab Q739/AB

サイズ 約 315×249.5×23.8mm

使用時間 約 11.5時間

充電時間 約 2.5時間
(パワーオフ時)



子どもたちのタブレットについて

- 三木市からの貸出品（自分専用）
- 卒業または転居時に返却
（返却後は、次の1年生が使用）
- アカウントも中学校3年生まで使用
- 主に学習のために使用
- 家庭への持ち帰り可（要同意書）



具体的な使用について

- Teamsによる、連絡確認、課題の配布・回収
- タブレットドリルへの取り組み
(学習履歴の蓄積・活用、個別最適化学習)
- 動画、静止画を撮影し、学習に活用
- オンライン授業の取り組み



保証、故障修理について

- 通常使用内で起こった故障・破損については、ほぼ保証される
- 保証の対象外となる場合（抜粋）
 - ・ 天災地変（地震、噴火、津波等）に起因する場合
 - ・ ペットによる故障・破損
 - ・ 紛失（ただし、盗難は保証の対象）
 - ・ 無断でダウンロード、インストールなどをしたことによるシステムの故障
- 修理が必要な端末は交換で対応
ただし、交換に時間がかかる場合がある



保護者の皆様へのお願い



- タブレットのケースの準備をお願いします。
- 家庭でのWi-Fiの接続をお願いします。
(家庭にWi-Fi環境がない場合は、市から教育委員会を通じてモバイルルーターの貸出をしています。)
- ご家庭での、スマホ・タブレット等の使用ルールを見直しましょう。

よろしくお願いします

保護者の皆様へのお願い



- タブレットを家庭に持ち帰った際には、どのような使い方をしているのか、確認してください。
- Teamsには学習の足跡も残っています。学校でどんな使い方をしているのかが分かります。
- 有害サイトのフィルタリングやウイルス対策もしています。

よろしくお願いします

保護者の皆様へのお願い



- ゲームのインストールはできてしまいます。
- YouTubeも見ることができます。



自分でいかにセーブできるかが重要!

**※危険なものから遠ざける教育から、
正しい使い方を学び、実践できる教育へ!**



周囲の大人たちで、子どもたちの学びを支えていきましょう

